

「九条の会さかど」ニュース 14年9月25日 第53号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 283-4723 (FAX 兼用) 栗原

戦跡めぐりにご参加を！

千代田 大久保俊秀

今年も、坂戸市周辺に残っている戦跡から、戦争の悲惨さや愚かさを知り、平和への想いを新たに「坂戸の戦跡めぐり」を行ないます。

今回の戦跡めぐりでは、陸軍坂戸飛行場の外周約8kmを歩いて一周することで飛行場の広さを実感しながら、弾薬庫・被爆アオギリ二世、防火水槽、陸軍軍標、防風林などの戦跡を見学します。

【2014年の戦跡めぐり】

1. 日時 10月19日(日)13時～17時
2. 集合 坂戸中央公民館2階学習室B
3. 主催 九条の会さかど
4. 後援 坂戸市・坂戸市教育委員会
5. 当日の流れ

坂戸中央公民館で概要と戦跡の説明後、戦跡めぐりを開始。途中2カ所で休憩し、中央公民館に戻ってまとめを行ない、解散。

※歩き疲れた人には救援車両の用意があります。

6. 費用 無料
7. 参加 先着順40名(10月16日(木曜日)締め切り、049-283-4723(栗原)までお申し込みください)

新たな発見、語り継ぐ

塚越 小野澤義雄

8月10日(日)、坂戸駅前集会施設において、九条の会さかど「戦争語り継ぐ会」が開催されました。今回は「勤労動員と風船爆弾工場の思い出」というテーマで鈴木弘さん(82歳)のお話をうかがいました。

風船爆弾とは、爆弾を乗せた気球を上げて偏西風に任せ、アメリカ本土を攻撃しようという兵器のことです。気球の風船には、和紙とコンニャク糊が使用されました。風船は直径10mで、千葉県、茨城県、福島県の海岸へ運ばれ、水素で風船を膨らませ、アメリカ本土に向けて放たれたのです。放たれたのは9300発ほどだ

ったようです。

参加した方が「日本が和紙とコンニャク糊で紙風船を作り、『1億総火の玉』などと言って竹やりや木銃の訓練をしていた頃、アメリカでは原子爆弾が研究されていた。全くブラックユーモアだ」と発言されましたが、全くそのとおりと共感しました。

さて、風船爆弾については、軍事機密だったこと、戦争協力者や戦犯追及などもあったため、風船爆弾作りに携わった人々は、皆一様に口を閉ざしてしまったことから、風船爆弾に関する実態が戦後50年から60年にわたって明らかになりませんでした。

しかし、秘密保護法、集団的自衛権など、戦争前夜を思わせる状況の中で、戦争の体験者たちが、戦争を風化させてはいけない、戦争語り継がなくてはならないと口を開き始め、風船爆弾についても少しずつ明らかになってきました。

そして、今回、あまり知られていなかった坂戸の風船爆弾工場の工場長の息子さんである鈴木弘さんから、お話を聞く機会に恵まれ、坂戸工場についてもその実態が明らかになりました。

坂戸市本町7丁目にあった風船爆弾工場は、間口6.3m、奥行き100mの敷地にありました。和紙を張り合わせた原紙は、機械乾燥では足りず、庭や坂戸小学校のプラタナス並木に立てかけて、天日乾燥しました。

工場では、本町周辺の女性たちと少数の男性合わせて20名ほどが働いていました。坂戸の工場では、憲兵は常時立っていることはありませんでしたが、定期的に回ってきたそうです。鈴木さんも工場と自宅が同じ敷地にあった



坂戸の戦跡めぐり

日時 10月19日(日)13時～17時
集合 中央公民館2階学習室
コース 陸軍坂戸飛行場の外周(約8キロ)を一周しながら今なお残る戦跡を見学

※途中からでも、途中まででも、ご参加を！
歩いての参加がご心配の方は、どうぞご相談ください

ので、工場に出入りし作業を手伝ったこともあったそうです。

坂戸工場で製造した風船爆弾の原紙は、埼玉県平和資料館で保管され、資料館では風船爆弾のミニチュアを見ることができます。

また、風船を乾かすのに使われた坂戸小学校のプラタナスの木は、古くなり倒れる危険があるとして、最近伐採されましたが、鈴木さんの話を聞きたいと今回初めて参加した人が偶然伐採の場に居合わせていて、何かに使えるのではないかと根本の一部を自宅に持ち帰っていたそうです。「持ち帰ったものが『戦跡』だったとは知らなかった！」と驚いていました。

今回の語り継ぐ会がきっかけで、坂戸の新たな「戦跡」の発見となりました。

風船爆弾工場のあった所は、現在は立派なマンションが建っています。

戦争を語り継ぐ会の感想から

◆ お話をありがとうございました。鈴木さんは、子どもとして、どういう思いだったのか、やはり、その当時、または、その後の親子としての生の言葉を話せる範囲で聞きたかったです。「活字になるから言えない…」と言っていました。言えないこととは何だったのでしょうか。

資料にある風船爆弾について、作るのにかなり大変だったろうに、9300個放球中、到着が確認されたのは、1割にも満たない500発だったそうです。過酷な労働、軍事工場のむなしさを強く感じました。あらためて、二度とこのような「戦争のために、国民の生活全てをかけて、生きなければならない世の中」にはいけないと思いました。

紙芝居は、「あじさいの会」のキャストの方の素晴らしい声。もちろん、子どもたちの前で読んであげてらっしゃるのでしょう。ありがとうございました。

(落合)

◆ 今回の「戦争語り継ぐ 子や孫の時代へ」の案内が、8月8日付けの毎日新聞埼玉版に出ていて本当にうれしかった。鈴木弘さんのお話しも、勇気ある内容で、心から感謝と敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

本会の事務局に、秩父市やさいたま市の方から参加したかったとのFAXやメールがあったとの報告もあった。うれしかった。(井原)

◆ 鈴木さん、長い間、どんなに苦しかったことでしょう。よくぞ語っていただき、ありがとうございました。

坂戸に風船爆弾の工場があったことを、初めて知りました。昨年の「戦争語り継ぐ会」で聞いた風船爆弾工場の話の思い出します。

その工場の中で働かされた女学生の人達も、12時間交代の重労働で、手の皮が破れても働かなくてはならなかったこと。そのことを家族にも話せなかつ

たこと。風船爆弾工場で働いた人たち全員、秘密を守らねばならなかったこと。その苦しさを思い、あらためて戦争は絶対してはいけないと思いました。

(小堺キミ子)

◆ 風船爆弾に関し、全国的に戦争中は軍事機密だったとは知りませんでした。関係者にたどり着くまで20年もかかるほど、誰ひとり口を閉ざして語られなかった風船爆弾工場のこと。埼玉県は、坂戸より、川越、志木、大宮、朝霞、浦和、久喜など、県内のあらゆるところにあったこと。坂戸に住む市民として、風船爆弾工場の実相を知り、深く考えさせられました。

鈴木さんのご両親、ご親戚の心の重圧はいかばかりかと思いました。そして、学生や徴用工員さんたちは、怪我などなかったのでしょうか。

何につけ戦争によってこのような状況が隠されているとは、全く怒りを覚えます。戦争反対です。九条をより知り、九条大切にがんばりたいものです。

(高橋明子)

◆ ドイツやフランスは過去の戦争について、しっかりと子どもたちに伝えていくと聞く。しかし、戦後生まれの私は、あまりにも具体的なことを知らないと感じています。幼児、小学校、中学校の頃に、事実をしっかりと教育の中で伝えられていたらと思うのですが…。

こんな機会があったら、参加し学んで行こうと思っています。鈴木さんの話、聞けて良かったです。紙芝居も素晴らしかったです。(小野沢紀美子)

◆ 「風船爆弾について語る」は2回目でしたが、1回目の内堀ヨシノさんとは立場の違う方の話でしたので大変参考になりました。

今回は坂戸市以外の近くの市町村でも軍需に関する作業をしていたこともわかり、多くの人々が戦争にかかわっていたことに驚きました。

生産については緘口令が敷かれ、秘密を守るために多くの人が苦勞されていた事実から、現在また「秘密保護法」が作られたことの重大さを強く感じています。(石川)

会の活動についての希望や要望

◆ イベントはこれまでどおりでも良いと思いますが、会員それぞれに会報が届けられる体制が今大切だと思います。それが運動の基礎になるのではないのでしょうか。

もっと会員一人ひとりの気持ちと力をまとめるために考えたいと思います。また、憲法をしっかりと学びたいと思います。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

10月23日(木)10時~12時、11月27日(木)10時~12時

北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)